

関電トンネルトロリーバス ラストイヤー

～黒部ダムとその周辺の見所を紹介します～

雄大な北アルプスの大自然に抱かれた黒部ダム。えん堤の高さ186mは日本一を誇り、ダイナミックな放水は、毎秒10トン以上もの水が霧状となり吹き出しています。

黒部ダムは富山県と長野県を結ぶ立山黒部アルペンルートの中にあり、観光名所としてもよく知られていますが、大迫力の放水や、巨大建造物としての存在感以外にも、魅力的なスポットが多くあります。



観光期間	平成30年4月15日～11月30日
観光放水期間	平成30年6月26日～10月15日

運行最終年を迎える「トロバス」に会いにきてください

立山黒部アルペンルートで走っているトロリーバスは、ガソリンではなく架線の電気を動力として走る電車の仲間で、現在、日本国内では関電トンネルと立山トンネルの2カ所ではしか運行されていない乗り物です。

関電トンネルトロリーバスは昭和39年8月から運行を開始し、「トロバス」の愛称で親しまれてきましたが、今年で運行を終了。「トロバス ラストイヤーキャンペーン」として、11月30日までの間、各種イベントなどを実施しています。なお、平成31年4月からは新しい乗り物「電気バス」が運行する予定です。



現在15台で運行中
[三代目:300型(平成5年～)]



アクセスについては、こちらをご覧ください。
(<http://www.kurobe-dam.com/access/index.html>)



イベントの一覧については、こちらをご覧ください。
(http://www.kurobe-dam.com/event_info/)

今年の黒部ダムはここが見所です

「石原裕次郎記念館」(北海道小樽市 平成29年8月31日閉館)で展示されていた「黒部の太陽」撮影セット(レプリカ)が黒部ダムの新展望広場特設会場内に移設され、映画上映50周年の今年、公開されることになりました(10月31日まで)。破砕帯工事のシーンなど、臨場感あふれる場となっています。



トンネルセットのレプリカ
(黒部ダム特設会場)

周辺観光スポットの紹介

湖上ホテルツアー [大町市]



ホテルの宝庫・青木湖にボートを浮かべてホテル鑑賞。空を乱舞するホタルの光が穏やかな湖面に映る光景は、思わずため息が出てしまうほど幻想的です。

詳しくは… [湖上ホテルツアー](#) 検索

大観峰 [立山町]



崖にせり出すように立つ大観峰駅から見渡す後立山連峰や黒部湖などの一大パノラマの美しさは立山黒部アルペンルートでも随一です。

詳しくは… [立山黒部 大観峰](#) 検索



半世紀以上にわたりお客さまをお送りして 関電トンネルトロリーバス

黒部ダムは国立公園内にあり、「環境に配慮した乗り物を」という考えから、電気でも走り排気ガスを出さないトロバスにより、扇沢駅と黒部ダム駅を結ぶルートの運行を担うこととしました。

トロバスは昭和39年8月1日に運行開始し、その車体は開業当初の「100型」以降、様々な開発や改良が行われ、昭和44年から「200型」、平成5年から「300型」が運行してきました。トロバスが半世紀以上にわ

たりお送りしたお客さまは、累計6,000万人を超えています。なかでも昭和43年には、映画「黒部の太陽」公開の影響もあり乗車人員が大幅に増加しました。

トロバス運行開始の昭和39年は、東京オリンピックが開催された年です。二度目の東京オリンピックの前にラストイヤーを迎える…トロバスは日本の発展期を通じ、お客さまをお送りしてきたのです。



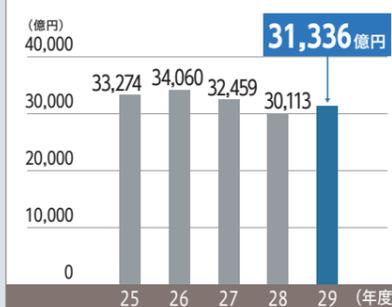
初代:100型(昭和39年～)
トロバス開業の様子



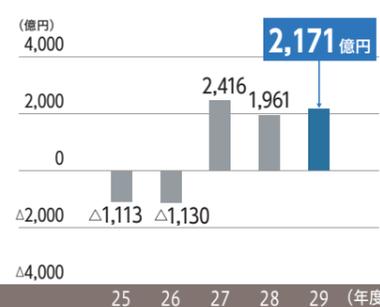
二代目:200型(昭和44年～)
(三代目は左頁)

Financial Highlights

■ 連結売上高

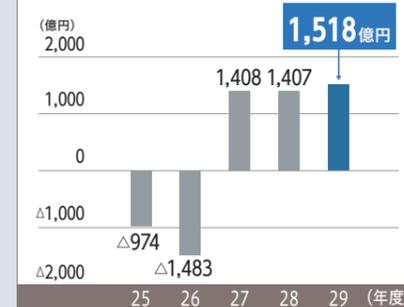


■ 連結経常利益



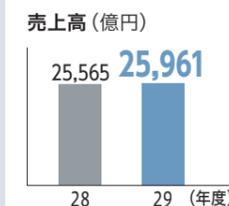
※親会社株主に帰属する当期純利益を指します。

■ 連結当期純利益*



収入面では、電気事業において、総販売電力量の減少や電気料金の値下げなどにより電灯電力料収入が減少したものの、託送収益や他社販売電力料などの増加があったことに加え、ガス事業や情報通信事業の売上高が増加したことなどから、売上高は3兆1,336億円となりました。一方、支出面では、経営効率化により徹底した諸経費の節減に努めたことに加え、原子力プラントの運転再開による費用の低減効果があったものの、燃料価格が上昇したことなどから、経常費用は前年度に比べて増加しました。この結果、経常利益は2,171億円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,518億円となりました。

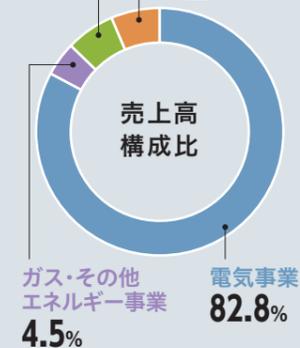
電気事業



電灯電力料収入が減少したものの、託送収益や他社販売電力料が増加したことなどから、前年度に比べて395億円の増収となりました。

セグメント別業績

情報通信事業 6.5%
その他の事業 6.2%



ガス・その他エネルギー事業



ガス事業においてガス販売量が増加したことや、ガス販売価格が上昇したことなどから、前年度に比べて480億円の増収となりました。

情報通信事業



FTTHサービス「eo光」や携帯電話サービス「mineo」、電力小売サービス「eo電気」の加入者が拡大していることなどから、前年度に比べて175億円の増収となりました。

その他の事業



不動産・暮らし事業において、住宅事業の売上が増加したことなどから、前年度に比べて172億円の増収となりました。